

半切四分の一に書くⅡ (24)

締切り 十二月十八日 (必着)

知音堂契深

素心



※1月号から、新シリーズが始まります。ご期待下さい。

神谷 葵水 先生 書

◎本誌に条幅(半切)の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のことです、その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ(約六八cm×十七、五cm)で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。平成二十六年にも一年間学びましたので、今回はパートⅡになります。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕 知音蘭契深 (性霊集)

ちいんらんけいふかし しやうりやうしゅう

〔大意〕 知音の仲で、蘭のように芳しい契で深く結ばれている。

※「蘭契」とは芳しい友情の絆。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤渇も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べるのが肝要です。

・落款(署名・印)も作品の一部です。丁寧に収めましょう。印のない方は□を赤ペン又は朱墨で書いて下さい。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一(約六八cm×十七、五cm)に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5版(二五七mm×一八二mm)以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。(フエルトペン・筆ペン可)

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

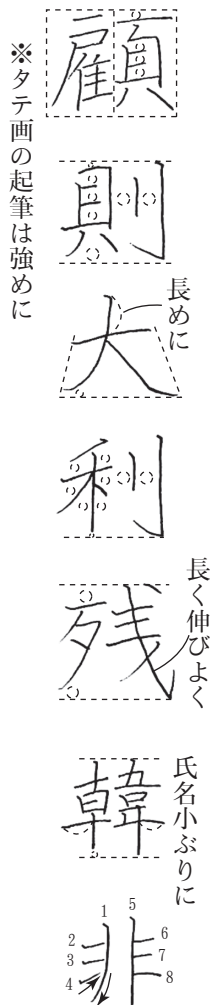
▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

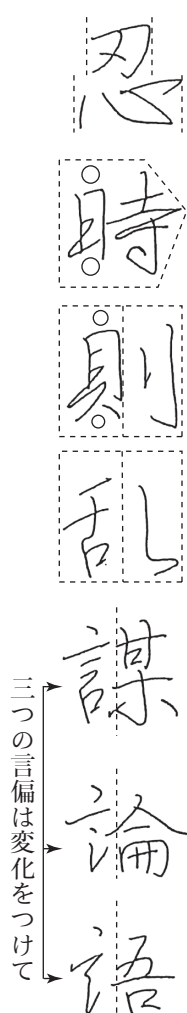


おく 村 暢 之 書

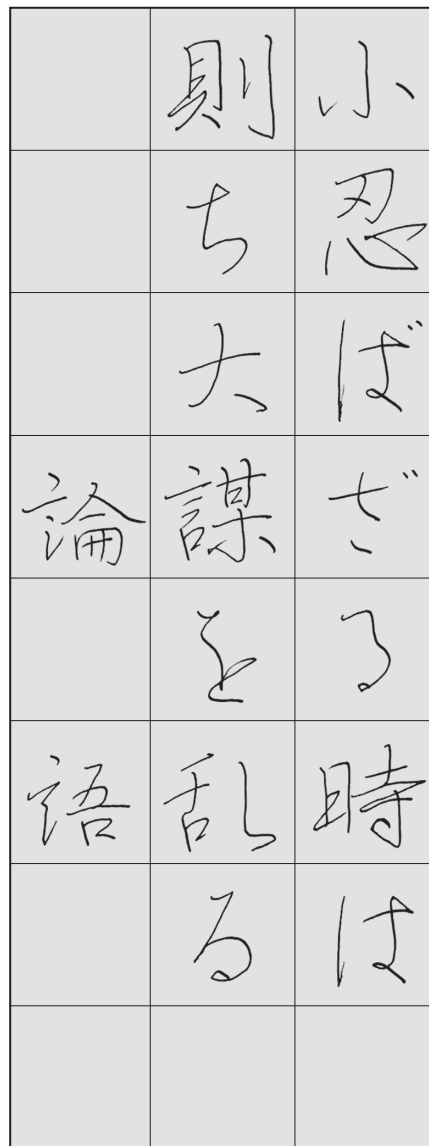
▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



三つの言偏は変化をつけて



おお たに せい じょう 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆1月課題予告（行書）
おそ
畏れると
恐れるとの違いを
若い人は知っていない
▼教範・書範Ⅱ楷書
▼師範Ⅱ行草または草書

★小利を：（書体Ⅱ楷書）
韓非子（前280？～前233）
中国戦国時代の法家
目先の利益につられると大きな利益
を失ってしまう、という意味です。
目先の小利にとらわれないためには
次のことに留意する必要があります。
一つは大局的な判断を見失わないこ
と、もう一つは常に目標を持って努力
を怠らないことではないでしょうか。

◆1月課題予告（楷書）
使わねば耗りて
使えば増える物は
智と力となり

★小忍ば：（書体Ⅱ行書）
孔子（前551～前479）の言行録
「論語」より
小さなことも耐え忍べないようでは
大きな計画を成功させることはできな
いと言っています。
例えば、新しいプロジェクト案に対
して、何も知らない上司が横槍を入れ
ても、成功させるためには辛抱強く聞
き入れることも大切でしょう。

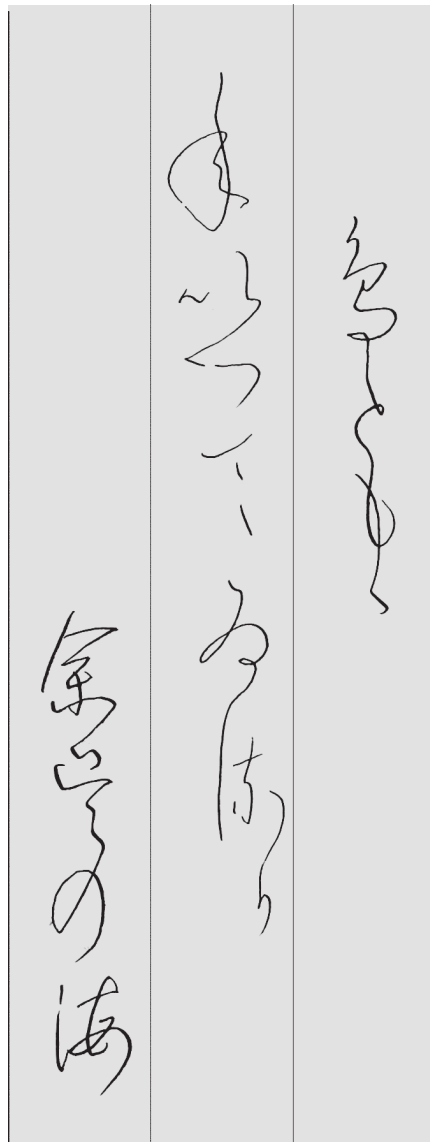
一般部かな課題

締切り 12月18日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

鳥どもも寝入^{、年以川(州)}つてゐるか余呉^{流可}の海



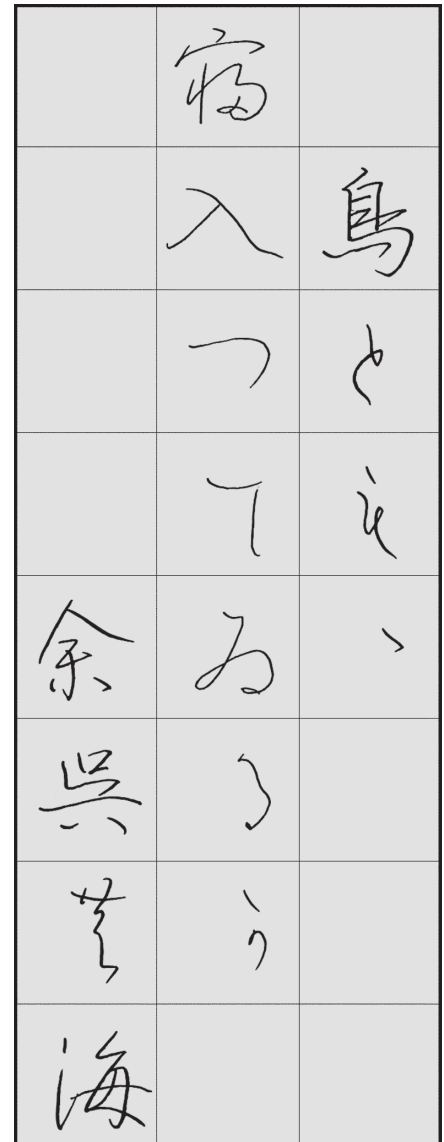
鳥どもも寝入^{毛、}つてゐるか余呉^{可農}の海

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆1月課題予告

日の春をさすがに鶴^{つる}の歩みかな

(榎本其角)

※先月号の12月課題予告では「余呉の海」としましたが、「余呉の海」とも書きます。どちらでも構いません。

【解説】 促音(つまる音)の「つ」の字は、読む時はつまって読みますが、仮名書きとしては小さく書きません。

鳥^もどもも寝入^{毛、}つてゐるか余呉^{可農}の海

【古筆参考】

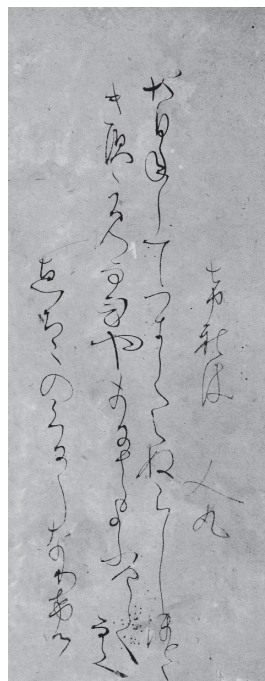
鳥どもも寝入つてゐるか余呉の海
(斎部路通)
【句解】冬の夜、余呉(吾)の海のあたりはしんと静まりかえっていて、波一つ立たない。この湖に棲む水鳥たちも寝入ってしまったているのだろうか。
【鑑賞】元禄二年(一六八九)年の冬、吟。湖岸に立った作者が、一人で湖面を包む夜の闇を見て、もうこの湖の水鳥も寝入っているのか、枯れ葦の陰にでも浮き寝をしてどんな夢を結んでいるだろうか、と思ひやっている体の句。

締切り 十二月十八日（必着）

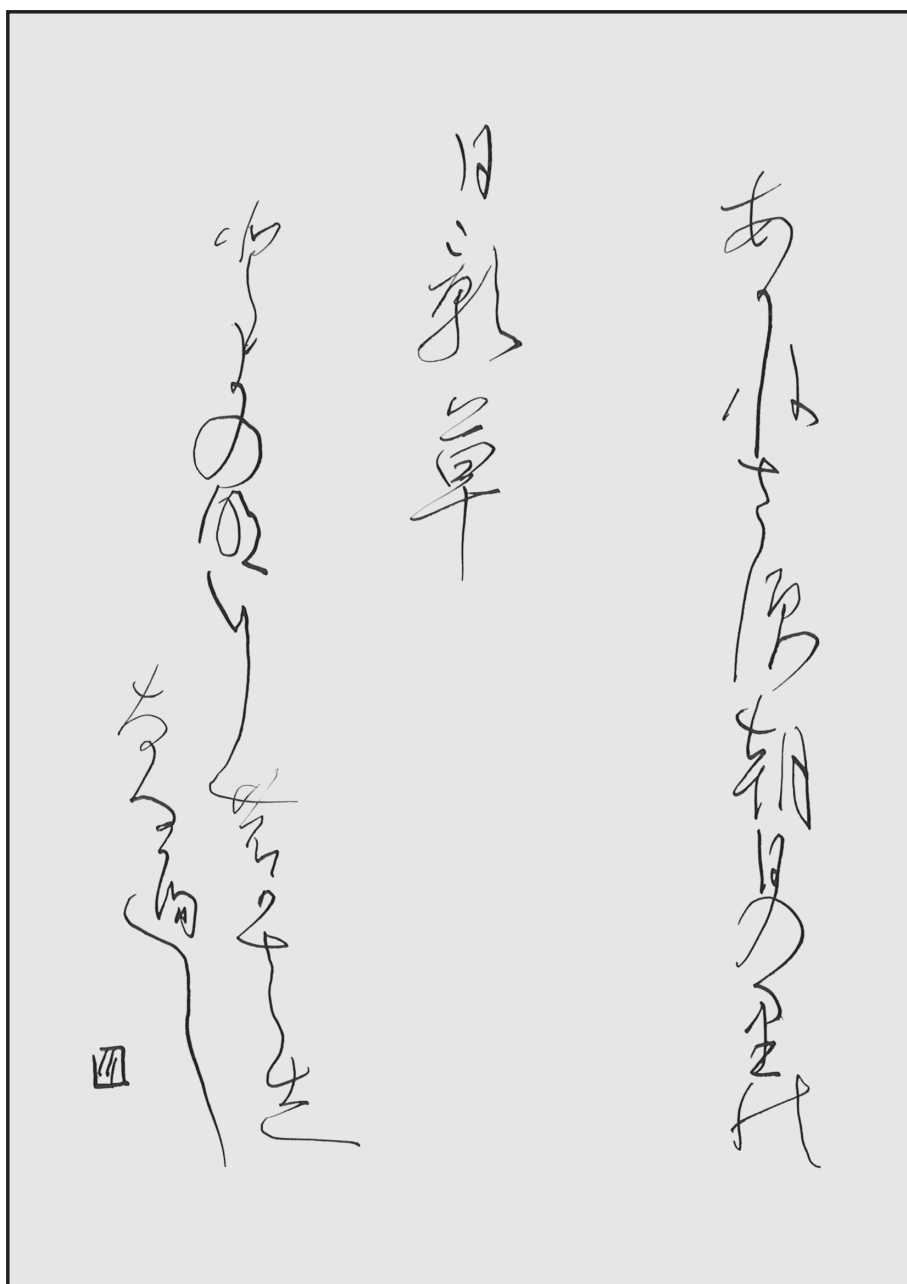
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

こう し ぎれ
香紙切



日年
 たびねしてつぎてえぬらしほとゝ
 須可兒飛
 ぎすかみなびやまにさよふけてなく
 恵
 ゑちごのくにゝなりける
 久尔
 利希



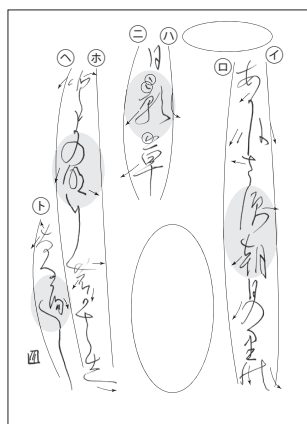
あか^可ねさ^須す朝^朝日の^日里^能の^の日^日影^影草^草
 豊^登の^明あ^農かり^可の^志か^奈ざ^遍し^遍なるべし

〔歌意〕朝日の里に生えるひかげのかずらは、きつと豊明とよあかりの節会せちえの時の人々のかざしとされて、光をそえるでしょう。

〔出典〕新古今和歌集

（新潮日本古典集成）

〔解説〕



● イとロ、イとニ、イとヘ、ハとニ
 ハとヘ、ハとト、ハとヘ、ホとト、
 それぞれ呼応。

● 〇 余白大切。

●
↙
の方向大切。

● 密の動き大切。

◆ 1 月課題予告

年暮れぬ春来べしとは思ひ寝に
まさしく見えてかなふ初夢

締切り 12月18日(必着)

自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイディアを生かして自由
に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな
年賀状をお待ちしています。

謹賀新年

山里の春は静か

なんてんの実が朝の光に

映えて美しい

そんな我が家

うしの

年正月

(ご自分の氏名)

※手本は水性ボールペン使用

謹賀新年

山里の春は静か

なんてんの実が朝の光に

映えて美しく

そんな我が家

山野みどり

横書き課題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

飛行機を発明したライト兄弟の、
世界初の飛行はわずか30mでした。

石川県七尾市

氏

名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

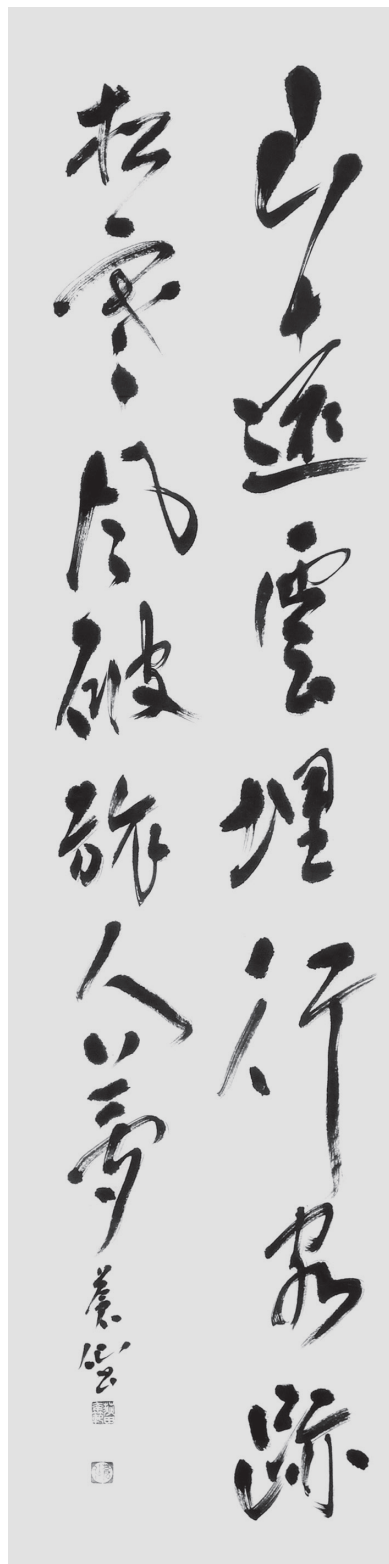
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 十二月十八日（必着）

半切（一二六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



山遠雲埋行客跡 松寒風破旅人夢

〔大意〕山はどこまでも遠く、見上げれば旅人である自分が通ってきた道は雲に隠されて見えない。松は寒々と立ち、風に鳴って旅寝を妨げている。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

師走の慌たゞさが増している中
こういつ時にこそ忙中閑ありで
硯に水を落とすとお氣に入りの
墨をゆったりと磨っています

吉村 絵美

書 香 梅 藤 伊

半紙（334mm×240mm）

※検定試験三段コースを兼ねる。

〔条幅解説〕

かつて楷書の作例で書いた同じ詩を、行草で試みました。添削での感想……形に集中し過ぎて墨量まで心が届かなくて、作品全体迫力不足。一方で墨量多過ぎて、重苦しく動きも悪く生彩を欠く作品……これは筆圧と速度との関連を上位の方の揮毫ぶりを見て会得して下さい。

・師走の慌たゞさが増している中
・こういう時にこそ忙中閑ありで
・硯に水を落とすとお氣に入りの
・墨をゆったりと磨っています

（ご自分の氏名）

・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)

須田一葉書

皎夜千樹寒

〔解説〕

皎
ゆったりと
軽くとめる

夜
筆立ててすっきりと
抜く

千
長く

樹
広く

寒
「寒」の書写体
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

皎夜千樹寒
きょうやせんじゆはさむし

〔大意〕月明かりの夜、千の木々は寒々としている。

◎筆の持ち方と姿勢

大筆の場合、筆は中程より上を持ち、右腕は机と平行に上げる。背筋が曲がらないように良い姿勢でゆったりと書きます。また手首ではなく腕全体を使って書くことが重要です。

・一点一画に力を入れすぎないように軽やかに書きましょう。

・一点一画ごとに筆先を整え直さないで、少なくとも一文字は続けて書きましょう。

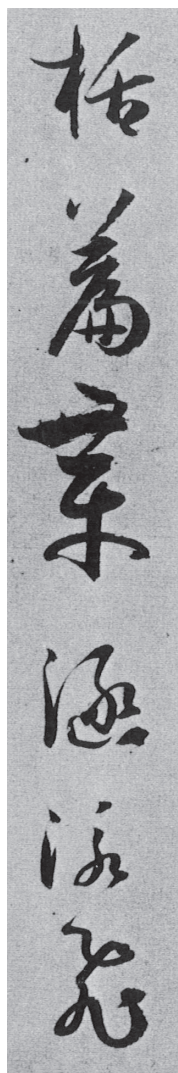
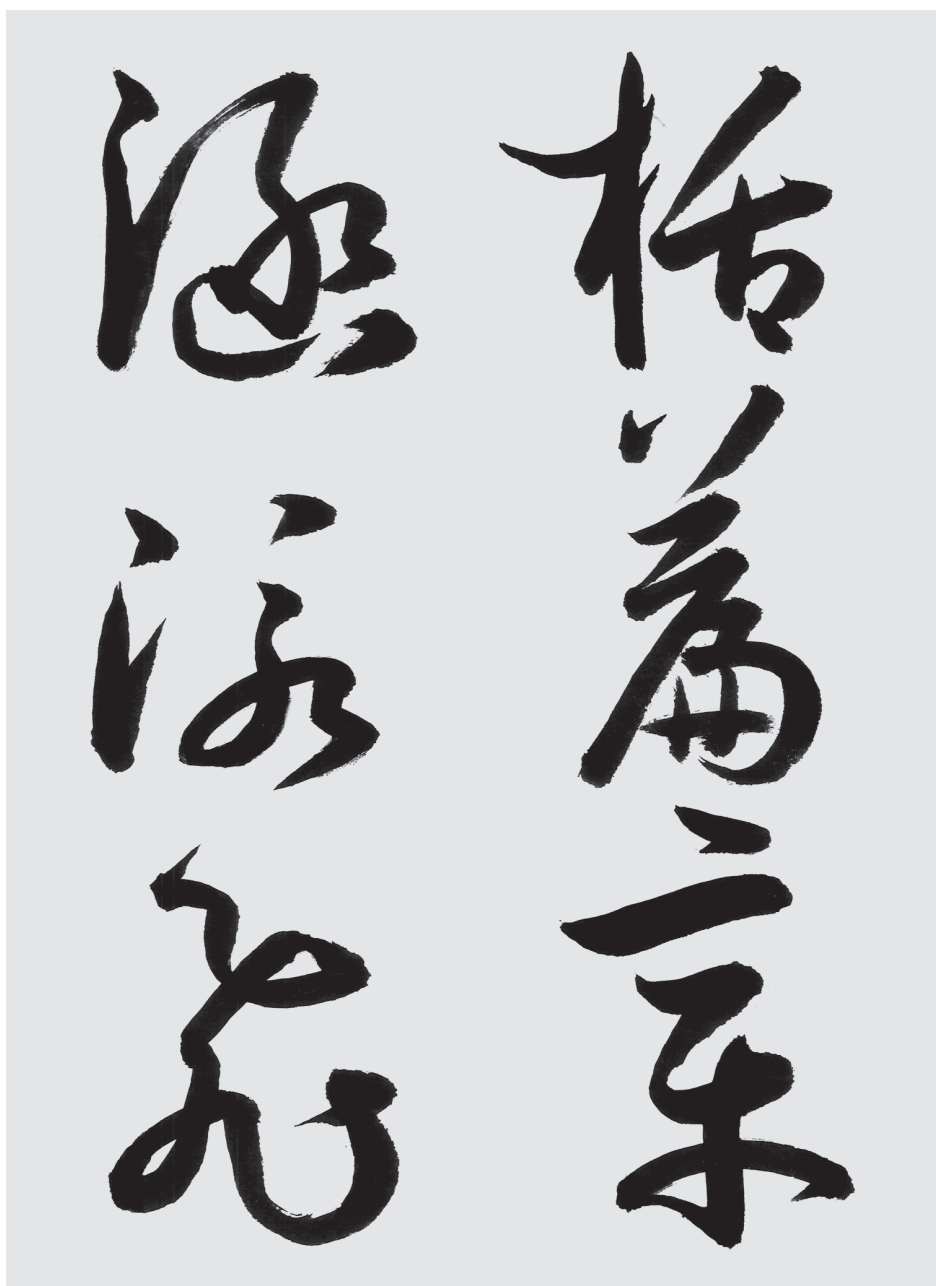
・本文が行書の場合、氏名も行書で書きます。名前の位置はあまり下にせず、左端に寄り過ぎないように注意します。

◆1月課題予告(楷書)

和気萬家春

準初段から師範まで

奥村暢之臨



括

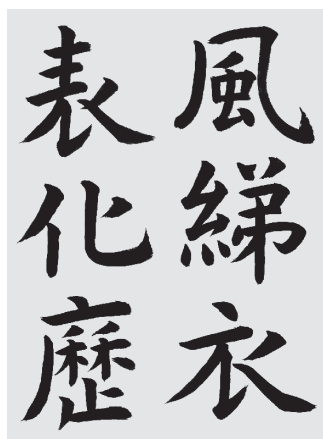
篇

章

涵

泳

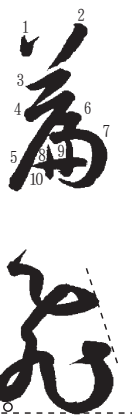
飛



◆1月課題予告

◇草冠に作る

◇右回転、左回転の
変化と穂先のねじれ

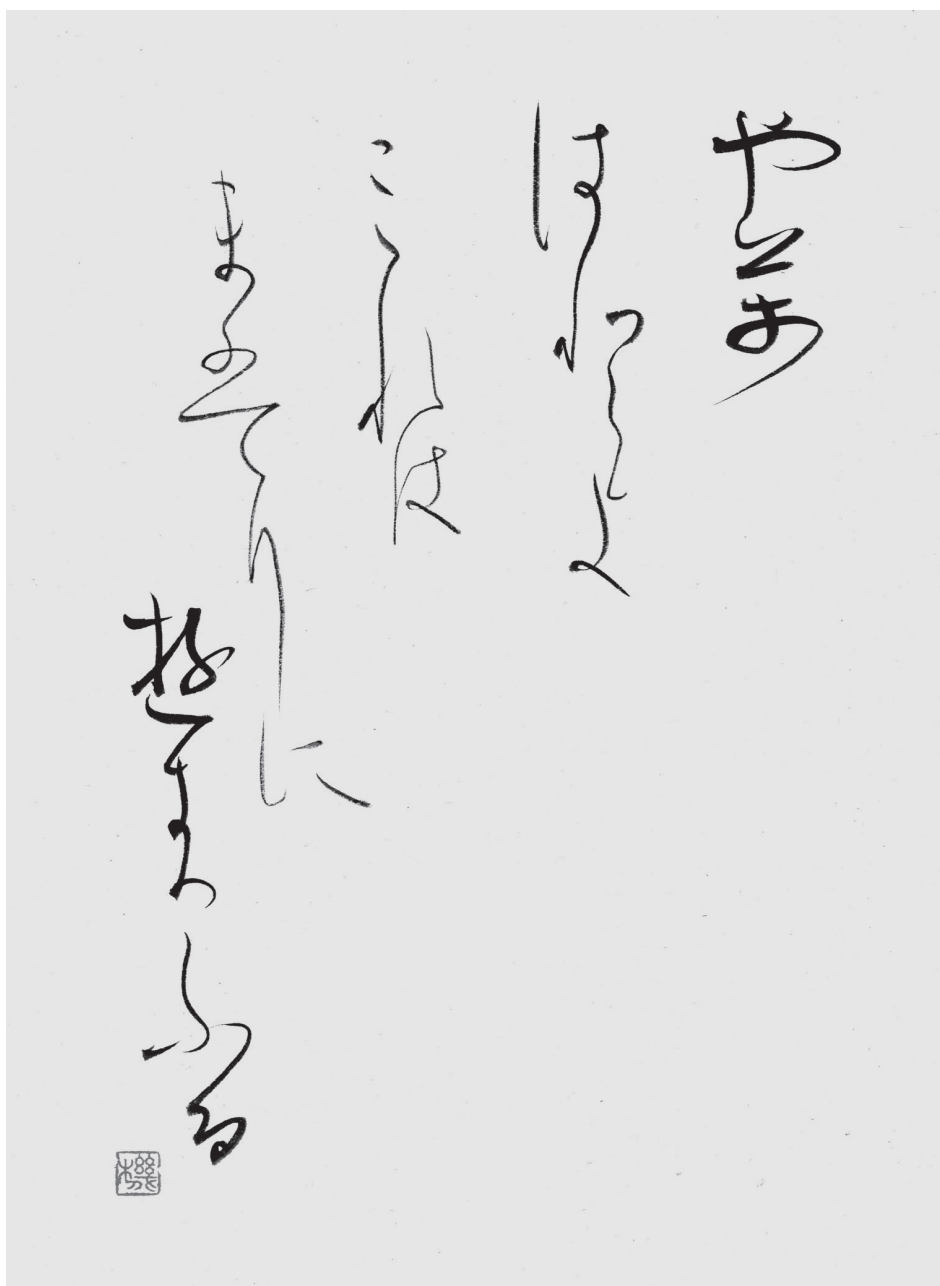


〔出典〕書譜（六八七）
〔筆者〕孫過庭（六四八？～七〇三？）
〔読み〕篇章を（包）括し飛（白）に
涵泳す。
〔解説〕書譜の撰文と書写は、ともに
孫過庭によるもので、現在は台湾の国
立故宮博物院に現存する。
書譜の重要性は次の三点に集約され
る。第一に唐代の数少ない真跡の一つ
であり、第二に王羲之書法の最も忠実
な継承作であり、第三にその内容が、
書芸術論としても名著であるという点
である。

現代語訳も手軽に入手できるので、
ぜひ一度全体を通して読んでみたい。

新入から1級まで

浅井 機山 先生 書



※検定試験1級コースを兼ねる。

やまは登り
三
山鳩よみればまはりに雪がふる
盤
遊文可

たかやそうしゅう
高屋窓秋「白い夏野」

〔句意〕

山鳩が来ている、の声に窓外を見ると、山鳩のまわりに雪が降り続いていた、というのである。作者二十五歳の折りの句で、哀愁の表れた句。

◆1月課題予告

ながい
長生きをせばやゆつくり初湯へと

〔解説〕

まず全体を見ると、下に大きな三角形の余白がありますが、きちっとした三角形ではなく、ギザギザしています。また、左上に小さな余白があります。

それでは、1行1行見ていきましょう。

「や萬」「や」は、たっぷり含墨した筆で突いて(蔵鋒で)力強く水平線を引き、回るところはゆっくり回り、回り切ったら速度を上げて筆が宙に飛んでいきます。舞い降りて点を打ち、縦画に入ります。「や」がうまく書けたら、「萬」も力強いその勢いで書けばうまくいきます。

「は登よ」、伸びやかに「は」の1画目を書き、「は登」の連綿線も伸びやかにいきます。

「三」は、は前2行と行頭を揃えるように「三」の最初の点を打ちます。

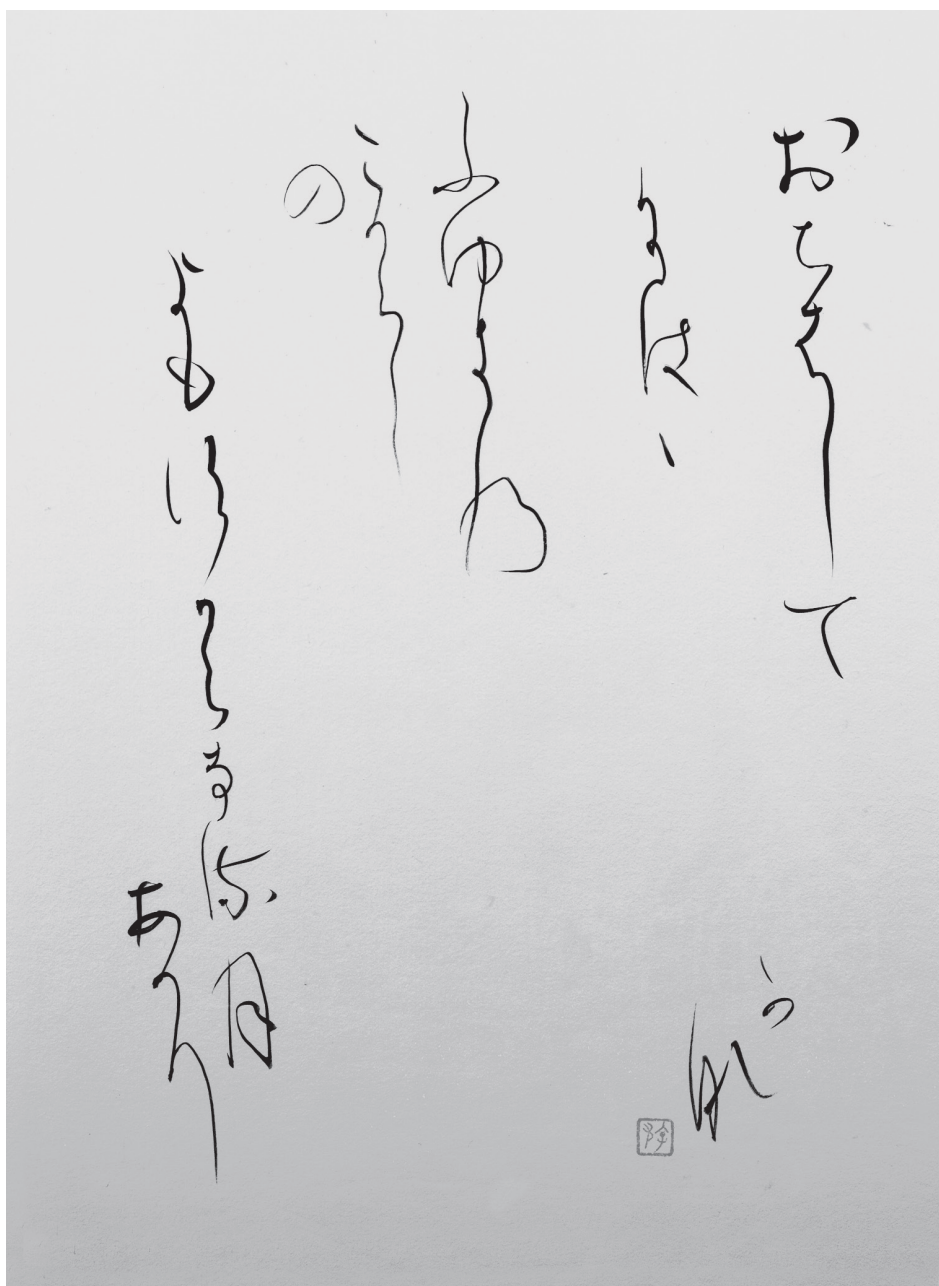
この「は」「は」「れ」にくっつけるように字間を密にして引き締めます。

「ま盤りに」「ま」は前3行よりやや下げて書き出します。「り」は伸びやかに書き、「に」の2、3画目は余白へ広がるように書きます。ここまで書いて一呼吸してから次へ進みます。

「遊支可ふる」、ここで墨継ぎします。「遊」は前4行を見回しながら書く位置を確認し、力強くキビキビと書き出します。「遊」を串刺しするよう「支可」を書き、「ふ」は細めに受けて揺らします。「る」は揺らした「ふ」をしっかり受けて右へ寄せます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



※検定試験三段コース以上を兼ねる。

落葉して庭は冬木のこがらしの

夜もすがらなる月明りかな

太田水穂

〔歌意〕

木々はすっかり葉を落としてしまった、その冬、
木をわたる木枯らしの音が夜とおし聞こえ、
月もまた一夜明るくかがやいていることだ。

◆1月課題予告

春日野におふる若菜を見てしより

心を常に思ひやるかな

〔解説〕

まず全体を見ると、下半分が大きな余白になっています。「よもし」の行が上から垂れ下がり、「あ可り」を添えている姿は、あたかも大きな旗を旗手がしっかり持って行進している姿です。

順に見ていきましょう。

「おち者して」、上の方からゆったり軽やかに「お」を書き出します。「し」は勢いよく下げて抜き放ち、「て」は4字を少し構えて受け止めます。

「尔は」、1行目より少し下げて書き出し、勢いよく「は」の1画目まで書き、2画目以下は軽やかにヨコタテナメを書き、「ゝ」の点はタン！と毛先で叩いて跳ね返って空に跳びます。「尔は」の連綿線は反動を使って書きます。その反動は「ゝ」の打ち方と同じ感覚です。

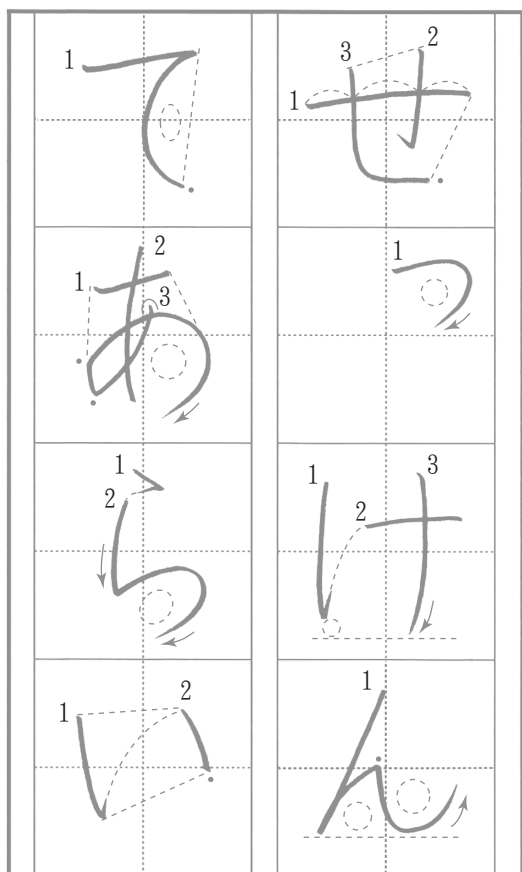
「ふゆ支乃」、上から下まで字を連続させています。連続していますがズルズル書き続ける必要はありません。即ち、連綿の途中の角（かど）の止まったところでは、筆を紙面から離して、毛先を立ててつないでいけば、どれだけ多くの字数でも連綿することができ

ます。

「こ可らし」、で行間を詰めます。
「の」、さらに詰めて、宙に浮いた

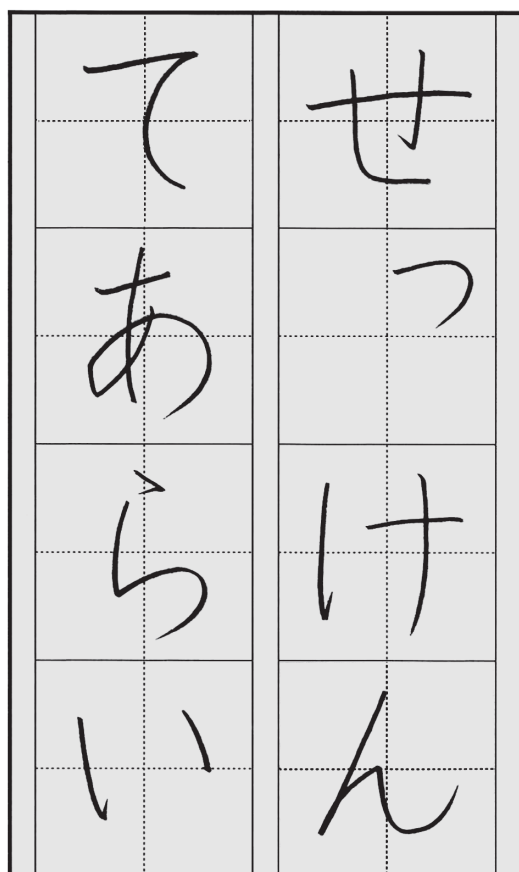
ここまで4行の塊を安定させます。
「よも須可らし」、以下は、自分の思うようにお書き下さい。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



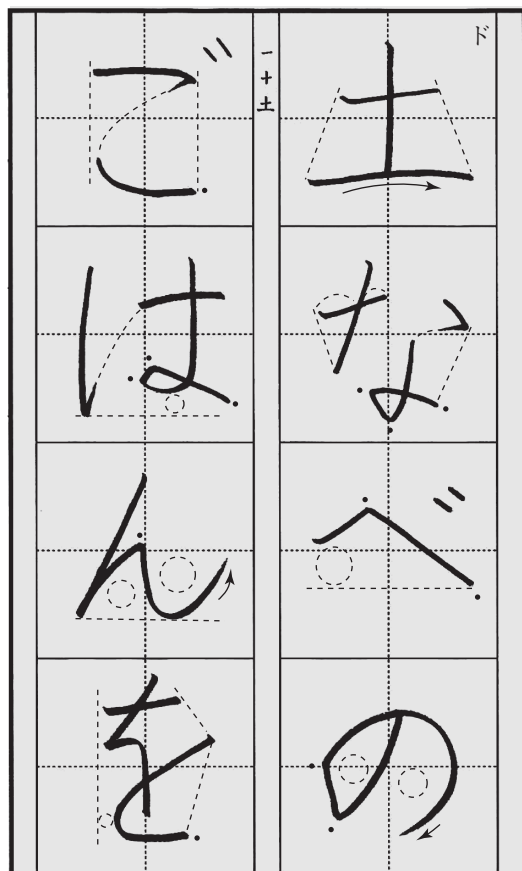
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年～小三年まで
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

は	早	はや
を	口	くち
言	こ	
う	と	

新入1級

出	を	早
し	五	口
て	回	こ
言	声	と
う	に	ば

準初段以上

小二年

準初段以上

も	畑	はたけ
を	の	
出	里	さと
何	い	

新入1級

市	を	畑
場	箱	の
へ	に	里
出	つ	い
荷	め	も

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

おほ 見	はな 花
こと 言	ば 葉
す	を

新入〜1級

て	言	図
見	葉	書
え	を	室
ま	調	で
す	べ	花

小四年

準初段以上

いぬ 犬	ユウ 夕
サン 散	ハン 飯
ポ 歩	まえ 前
で(かける) 飼	か(い) 飼

解説(よく見て習いましょう)

に	い	夕
出	犬	飯
か	の	前
け	散	に
た	歩	飼

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上
岡嶋桂川書

解説 (よく見て習いましょう)

小六年

(全員)

中
一
年

(楷書)

中二・三年

(楷書)

〈用具〉自由（黒色に限る）

▼小三年以下の課題 ささき けい せん 書
佐々木 恵 泉

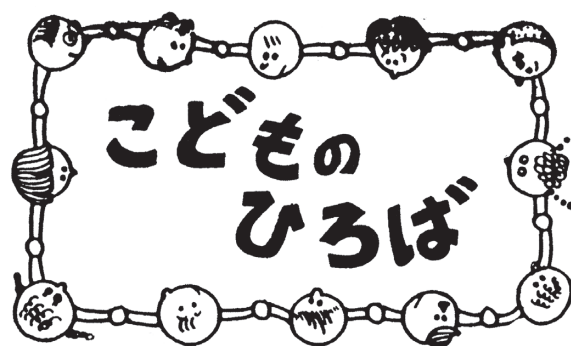
美 ^{うつく}	シ	真 ^ま	店 ^{みせ}	お
し	ク	っ	の	花 ^{はな}
い	ラ	白 ^{しろ}	前 ^{まえ}	屋 ^や
	メ	な	の	さ
	ン			ん
	が			の



◎お手本はえんぴつ使用

- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はつけペン使用



しめきり 12月18日（必着）

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 おお はら けい えん 書
大 原 啓 園

掃 ^{そう}	効 ^{こう}	勉 ^{べん}	役 ^{やく}	兄 ^{きょう}
除 ^じ	率 ^{りつ}	強 ^{きょう}	割 ^{わり}	弟 ^{だい}
し	よ	部 ^べ	を	三 ^{さん}
ま	く	屋 ^や	決 ^き	人 ^{にん}
す		を	め	で
			て	



※部屋＝単語としてこのように読みます。



小二

早口

さい

ぜ

早 ぜ

口 な

小一

なべ

幼年〜小二年
酒井智仔書

小五
犬の散歩

里も
小三
いい

葉

里

散

花

歩

言

葉花
小四
言葉

小三・小五年

水野碧友書

中二三
活
活動
点動

小六
提
作文
出文

到
作
活
提
動
前

中一
未
前
到人

第79回 毛筆検定試験受験要項

12月18日締切り

■受験にあたってご注意

▼検定受験者は、十二月のすべての毛筆月例競書をお休み下さい。（短期特別課題は出品可）

▼一覧表の最高昇段級位というのは、各コースで取得できる最高の段、級位を示したものです。現在この段級位にある人は、それ以上のコースを受験して下さい。

■出品方法

▼作品は、必ず一覧表に明示した順序にそろえ、右肩をホッチキスでとじて下さい。

ただし教範コースは、上から、①漢字②かな③細字④教育部手本課題⑤条幅⑥書歴（初回のみ。詳細は本部へ問合せ）の順にそろえ、ゼムクリップでとじて下さい。

▼検定作品と月例作品を同封する場合は、必ず、二つのビニール袋に分けて入れ、表に「検定」「月例」と明記して混同しないようにお願いします。

▼支局・支部には「検定作品出品明細書」を一月号配本時に同封しますから、所事項記入の上、作品、受験料と同封して下さい。さらに、正確を期す上から受験者名簿を添付して下さい。

▼封筒に「検定受験」と朱書して下さい。

▼受験料は、為替か小為替で作品と同封するか、現金書留による送金に限ります。（振替、その他は不可）

●締切り 令和二年十二月十八日（本部必着）

●送り先 大書心会検定試験係

●発表 令和三年三月号

▼肉筆手本希望者は、毎月裏表紙掲載の先生へ、現金書留（返信用封筒同封）でお申込み下さい。

（左記料金は、一点についての金額です。ただし、コピー手本・添削料は四割の価格といたします）

※条幅の原寸大のコピー手本はありません。

・一般部1級・三段コース

・活字課題

五段コース以上
会友コース以上

漢字半紙	細字・かな	漢字半紙	細字半紙	条幅	細字	教育部
一、二〇〇円	一、八〇〇円	一、四〇〇円	一、〇〇〇円	三、八〇〇円	二、〇〇〇円	九〇〇円

◆一般部1級・三段コース

コース	課題	最高昇段	課題	漢字		かな	細字	計	受験料
				楷書	行書				
一般部	1級コース	1級まで	下掲課題 かなは月例級位課題	1	1	1	—	3	1,600
	三段コース	三段まで	漢字は下掲、かな・細字は月例級位課題	1	1	1	1	4	2,100

〔三段コース漢字課題〕

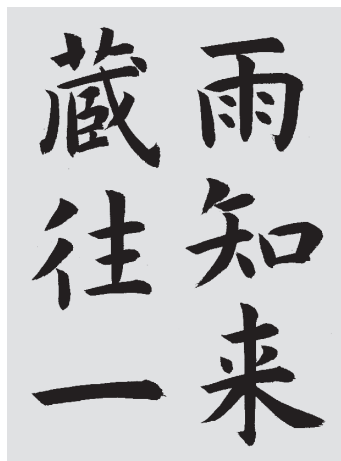
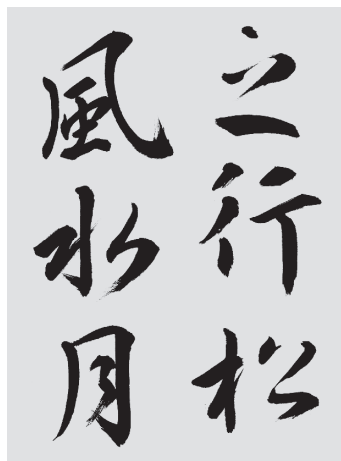
〔1級コース漢字課題〕

《集字聖教序》

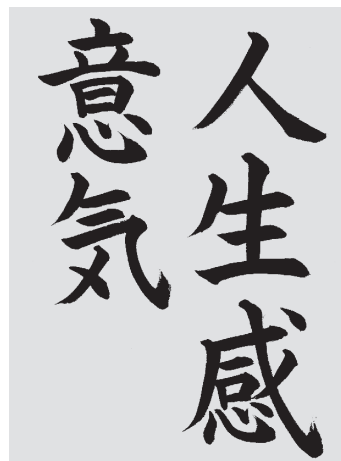
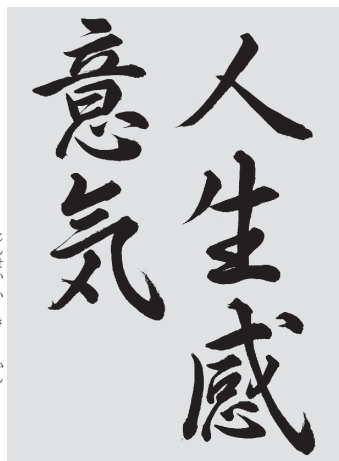
《孔子廟堂碑》

《行書》

《楷書》



じんせいいき
人生意気に感ず



神谷葵水先生臨

須田一葉書

◆一般部五段・書範・教範コース

◆教育部普通・会友コース

コース	課 題	受 験 資 格	最 高 昇 位	課 題	漢 字			かな	細 字	条 幅	教 育 手 本	計	受 験 料
					楷書	行書	草書						
一 般 部	五 段	有 段 者	五段まで	下記（活字）	1	1	1	1	1	—	—	5	2,700
	書 範	有 段 者	書範まで	下記（活字）	1	1	1	1	1	1	—	6	3,200
	教 範	書 範	教 範	下記（活字）	1	1	1	1	1	1	2	8	4,200
教 育 部	普 通	—	12月しめきりの月例競書課題									1	420
	会 友	四段以上の中学生 準会友の小学生	12月しめきりの月例競書課題と下記活字課題（行書）									2	740

◎師範試験は、毎年2月に単独で実施しています。

■五段・書範・教範コース受験のきまり

- 一、五段・書範・教範コース受験は、上掲一覧表のと
おりの受験有資格者に限ります。
- 一、教範コースは単位合格が認められますが、単位を取
得されていても、受験の際は改めて全科目を提出し
て下さい。ただし、合格科目については、審査の対
象から除きます。
- 一、単位合格は、二年以上検定試験を受験しないと無効
になります。

「五段・書範・教範コース課題」

漢 字

五段コース以上共通（半紙）

図版で示した三つの法帖の各六文字を、それぞれ半紙に
臨書して下さい。

▼孔子廟堂碑

以 貫 之 但 否 泰

▼集字聖教序

未 足 比 其 清 華

▼書 譜

子 敬 嘗 作 佳 書

■かな 三段コース以上共通（かな用半紙）

次の和歌を、かな半紙にちらし書きにして下さい。
◎落葉して庭は冬木のこがらしの
夜もすがらなる月明りかな（太田水穂）

※9頁参照

■条 幅 書範・教範コース共通（画仙紙半切）

次の語句を、画仙紙半切に体裁よく書いて下さい。

ちくていそうかくれんむなしくまき
竹 亭 草 閣 簾 虚 捲
じゅしょううんべんかげたちまちとぶ
樹 杪 雲 辺 影 乍 飛

■細 字 五段コース以上共通（半紙）

次の語句を、行書または行草体で体裁よく書いて下
さい。

早くも師走の半ばとなりました
一年が過ぎるのはあっという間
ですね 今度の師範試験に向けて
着々と準備を進めています

■教育部手本課題 教範コースのみ（半紙）

小 1 あさ

小 6 快 車
電 速

※氏名は、各学年に合わせてお書き下さい。
（小1年はひらがなで書くなど）

■会友コース課題

活動

（行 書）

▼十二月締切りの自分の学
年の月例課題一枚
上上の語句の行書一枚
計二枚を一組とし、右肩
をとじて出品のこと。